

【資料2】清瀬駅周辺の未来構想ビジョン パブリックコメントの意見及び回答案一覧

◆意見の応募者数：16名 ◆意見の件数：35件

件数 No	該当箇所		ご意見	清瀬市回答	ビジョンへの反映
	章	項目			
1	2章	1. まちづくりを取り巻く社会状況	清瀬駅南口を保谷駅南口のようなバスターミナル+ペDESTリアンデッキ化してほしい。現状、歩行者とバスがOKストアの前で混交しており非常に危険なため、歩道を整備してバスと動線を分けるべき。併せて、エスカレーターの整備も必須。東久留米で発生した様なバスと老人の事故が起きてからでは遅いと思います。（3ページ2章の1:ウォーカブルな街づくり）	清瀬駅南口周辺は、歩行者やバス、自動車が交錯しているため重点エリアとして位置づけております。本ビジョンの検討にあたって実施したアンケート等でも同様のご意見を多くいただいております。市民の皆様や清瀬駅利用者にとって、安全で居心地のよい歩行者空間の整備を目指して検討を進めてまいります。また、駅へのエスカレーターの設置についても鉄道事業者と協議のうえ、引き続き検討してまいります。	なし
2	2章	4. 清瀬駅周辺のまちづくりの課題	ペDESTリアンデッキを駅ナカを通して北口西友側に繋げ、駅ナカにひばりヶ丘駅や東久留米駅のようにエミオを作してほしい。（5ページ3章の1:活力と賑わいを生み出す商業機能の充実） 駅ナカにエミオができないのならせめて、北口のマクドナルドがある付近を保谷駅のエミオや秋津駅のエミオのような通路型の店舗化してほしい。アミューと繋げてほしい（9ページ4章の2:周辺公共機能との連動）	生活利便性向上やにぎわい創出に向けて、まちづくりの課題に「清瀬らしい活力とにぎわいを生み出す商業・業務機能の維持・充実」として記載しております。駅周辺にどのように商業機能をもたせるか、駅中商業施設の可能性も含め今後検討してまいります。	なし
3	2章	4. 清瀬駅周辺のまちづくりの課題	本ビジョンが掲げる「駅周辺を市内アクセスのハブ拠点とする方針」に賛成します。しかし、この機能を実効性のあるものにするためには、まず前提として清瀬市全体を「どのような価値を持つ都市」と定義するかを明確にする必要があると考えます。私は、隣接する所沢市や西東京市等の大規模商業拠点と物販規模で競うのではなく、清瀬独自の資源である「高度な医療・福祉」を中心とした都市として戦略的に差別化を図るべきだと考えます。市内に点在する医療資源を一つの「医療キャンパス」と捉え、駅周辺はその「ゲートウェイ（玄関口）」として商業・サービス・交通機能を高密度に集約させる二段構えの構成を提案します。医療・福祉に特化することは、単なる社会保障の強化に留まりません。関連企業の誘致や専門職の居住促進による納税世帯の増加、医療機器開発における「現場の声」を活用した実証実験（リビングラボ）の誘致など、経済・財政面での大きなメリットを生み出します。さらに、お見舞い客や研究者等の交流人口が駅周辺の店舗を利用することで、結果として駅前の商業活性化に直結するという確かな根拠があります。このように、市全体の差別化戦略と駅前のハブ化をセットで推進することが、持続可能な未来構想に繋がると思います。以上、清瀬市の特性を活かした独自の発展を期待し、意見を提出いたします。	清瀬市全体のまちづくりの考え方につきましては、令和8年度から令和17年度までを計画期間とする、第5次清瀬市長期総合計画において方針を示す予定です。 ご提案いただいた「高度な医療・福祉」を軸とした都市戦略や駅周辺をその「ゲートウェイ（玄関口）」として都市機能を集約させることについて、医療・福祉の特化が駅周辺や市全体の発展にも寄与する可能性があると、重要な視点であると受け止め参考にさせていただきます。市内に医療・福祉系の専門性の高い3つの大学があることは、清瀬市にとって大きな財産であり個性となっています。まちづくりの課題にも記載している通り、「大学等の教育・研究機関や医療サービスの集積を活かしたまちづくりの推進」に向けて、今後具体策を検討してまいります。	なし
4		ロゴフォームについて	本パブリックコメントの入力フォームが「改行不可」という仕様は、市民が論理的な提案を行う上での大きな障壁となっており、多角的な意見を募る公的制度のあり方として早急な改善を期待します。	ロゴフォームの入力に際し、ご不便おかけし申し訳ございません。使いやすい仕様となるよう改善を図ります。	なし
5	5章	3. 今後の進め方	14ページにある、南北通路の整備や官民学連携の具体的な取り組みに期待しています。その際には、10ページにあるようなまちの環境を維持するルール作りをしっかりとやってほしいです。まちづくりに多くのひとが同じ熱量でビジョンを共有して取り組めるよう、しっかりと広報してほしいです。よろしくお願ひ致します。	南北通路の整備については、安全性確保や利便性向上に繋がるようなアプローチを検討してまいります。官民学連携については、行政だけでなく、民間企業や市民の皆様も主体となって協働して清瀬駅周辺のまちづくりを進められるような仕組みを検討するとともに広く周知を行い、駅周辺整備の機運を醸成してまいりたいと思います。	なし
6	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	第四章の2につきまして、成増駅を参考にし定期的にイベントを開催できるようなスペースを作っていただき、清瀬市の農家さんなどがマルシェを行ったりするスペースを作っていただけたら嬉しいと思います。地元住民の事業者などがそこでイベントを開けるようにするのはいかがでしょうか。また、商店街なども閑散としているイメージがあるので、難しいかもしれませんが市内で店舗をオープンするために少し安めにテナントを貸す・補助を出すなどはいかがでしょう？また、地域活性化のための公式ライターを活用しブログやサイトにて地域の情報を発信するのも良いかと思ひます。	本ビジョンの検討にあたって実施したアンケート等でもマルシェやイベントスペースを求めらるお声をいただいております。清瀬市としても、駅周辺のにぎわい創出や活気ある空間にしていくために、オープンスペース等の確保に加え、地域の方々がスペースを活用できる仕組みづくりについても検討してまいります。また、新規店舗の出店支援やSNS等での公式ライターの活用については、今後、にぎわい創出策を具体的に検討していく際に参考にさせていただきます。	なし

件数 No	該当箇所		ご意見	清瀬市回答	ビジョンへの反映
	章	項目			
7	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	P9 P10。 現在老朽化が進行している清瀬駅に対して高架化工事を実施し、長期的視野で清瀬駅が中心であり続ける必要があると思う。高架化により、小金井街道の踏切渋滞解消だけにとどまらず、北口、南口双方の駅前ロータリーの再整備を行う事で今後10年20年後の清瀬の価値を高めていくのが良いと思う。	踏切の渋滞解消や高架化については、東京都が策定している「踏切対策基本方針」に基づいて、重点的かつ計画的に多様な踏切対策が進められております。この基本方針において、清瀬駅は「鉄道立体化の検討対象区間」には該当しておらず、「鉄道立体化以外の対策の検討対象区間」として、道路の単独立体交差化（例：東村山3・4・7号のアンダーパス）等の対策を関係者間で検討し、交通の円滑化を推進していくこととされています。現時点において鉄道立体化の検討対象区間ではないことから、本ビジョンの取組の中でも言及していないことをご理解いただければと思います。	なし
8	4章	1. 清瀬駅周辺のまちづくりの方向性	現在妊娠中で、実家は所沢市にあります。 都心に働きに出てますが、妊婦のため自転車ではなくバスで駅まで行ってます。お年寄りが多い街と言いますが、実際北口側は結構新しい住宅街がつくられていて、若い世代も少しずつ増えてる様な気がしますがいかがでしょうか。 どの世代が暮らしやすいもとても重要ですが、税金等考えてもやはり若い世代(そしてサービスや企業など)をなるべく誘致できる街づくりが重要ではないかと私は考えます。8p街の拠点機能：いいと思います。現在ユニクロや無印、アカチャンホンポ、等々、大手商業系のお店、車が運転できない人たちは清瀬市外に買い出しに行くしかないためです。リビングと謳うのであれば、清瀬の中で完結する安心する場所を作って欲しいです。むしろリビングにとどまらず、ホッとできるお家そのもの(なんでもできる)を目指す様な街づくりをして欲しいです。	令和2年度～令和7年度までの6年間において、20代～30代の人口は、ほとんどの年代で増加している状況です。ご意見いただきましたとおり、若い世代の定住や誘致は、地域の持続可能性や活気を維持していくためにも重要な課題だと考えております。また、妊娠中や子育て中の方々も安心して、そして便利に暮らせるよう、清瀬市内で買い物や生活が完結できる商業機能等の充実に向けて、今後具体的に検討してまいります。	なし
9	4章	1. 清瀬駅周辺のまちづくりの方向性	まちの交通機能：せっかく駅前を開発してもお年寄りなど含めそこへのアクセスが不便だと大変だと思います。 個人的にはバスの本数をもっと増やす(特に通勤時、土日)して欲しいです。それが難しいのであればループやシェアサイクルを中清戸方面にもっと増やして欲しいです。(駐輪場も満車のことが多く停めれる場所に限られるため)カーシェア等も中清戸に増やして欲しいです。 駅前を開発するという点については大まかに賛成しますが、今暮らしていて不便だと思うのは駅から少し離れたところに一つもスーパーなどが全くないという点です！ひまわり通り中腹らへんにヤオコーやコープがあれば、団地もありますのでとても需要があると思いますし、今後古い家が壊され新しい建売が売られた際により需要が高まり若い世代を誘致しやすくなると思います。ヤオコーは定期的に商品もバズってますので誘致を前向きに検討して欲しいです。最後に基本的に遊びに行くのも清瀬市外に出なくてはいけないのはとても勿体無いと思います。市民のお金が市内で使われ循環すべきと感じます。 埼玉といえどお隣の所沢は基本的に市内でも買い出しや遊びが完結できますし、自然に触れたい時も航空公園や、石坂産業がやってる三富今昔村で自然に触れながら様々なことができますのでそちらを参考にしてみるのはいかがでしょうか。 ご検討のほど宜しくお願いします。	公共交通の利便性向上や、駅周辺だけでなく市内全体で生活がしやすい環境を整備することは非常に重要であると考えています。市全体のまちづくりにつきましては、頂いたご意見を踏まえて第5次清瀬市長期総合計画の中で検討してまいります。	なし
10		ロゴフォームについて	こちらの入力フォームですが、横一覧でしか入力できず非常に使いづらいと思います。改行ができるように改善するべきではないでしょうか？また、添付資料の送付を許可していただけると助かります。	ロゴフォームの入力に際し、ご不便おかけし申し訳ございません。使いやすい仕様となるよう改善を図ります。また、ご意見をいただく際に資料の添付もできる設定にする等して、利用者の皆様の利便性向上を図ってまいります。	なし

件数 No	該当箇所		ご意見	清瀬市回答	ビジョンへの反映
	章	項目			
11		全体的に	<p>1. 全般的な問題点（構造的な課題） ビジョンと施策の因果関係が弱い。「ホッとリビング」「みんなで育む」といったキャッチフレーズは明確だが、それがどの課題をどの取組でどう解決するのか論理的につながっていない。結果として、何を優先する街なのか何を捨て、何を選ぶのが読み取れない。【改善案】第3章（将来像）と第4章（方向性・取組）の間に「重点戦略（3～5本）」を明示的に置く。 例：戦略1：南北分断の解消を最優先とする駅前再編 戦略2：若年層滞留を生む駅前滞在機能の創出 戦略3：医療・教育資源を核とした昼間人口の活用 各取組に「どの戦略に資するか」を紐付ける</p> <p>3. あなたの所感を活かした表現案 本ビジョンは、清瀬駅周辺の将来像を幅広く描いている一方で、重点的に取り組むべき課題や優先順位がやや見えにくい印象を受けました。特に、将来像と個別取組との関係性、時間軸、担い手の整理をもう一段具体化することで、「実行に移るためのビジョン」としての説得力が高まると考えます。</p>	<p>重点的に整備を推進するエリアを清瀬駅と駅前広場及びその周辺として位置付け、次年度以降に駅前広場の整備案の検討を優先課題として、第5章「清瀬駅周辺のまちづくりの実現に向けて」の「3. 今後の進め方」でお示ししております。 具体的な取組の優先順位につきましては、今後の検討の中で具体化してまいります。 課題と取組の関連性をわかりやすくお示しするために、第4章「2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組」の各取組に、関係する「清瀬駅周辺のまちづくりの課題」の①～⑧を振り分け、修正いたします。</p>	<p>★反映あり★ 課題と取組を関連付けるために、以下のように対応する。 課題に①～⑧の番号をつけて、各取組のタイトルの横に、課題番号を列挙することで、課題と取組の関連性を表す。複数に該当するものもあるので、この方法とする。</p>
12	1章	3. 検討範囲・対象期間	<p>1. 全般的な問題点（構造的な課題） 「30年ビジョン」にしては時間軸が粗すぎる。「概ね30年間」としながら、短期（～5年）中期（5～15年）長期（15～30年）の整理がない。すべてが「いずれやります」に見える。【改善案】各取組をフェーズ分け。 短期：制度整備・社会実験・ルール作り 中期：再整備・民間誘導・拠点形成 長期：都市構造転換・再開発 特に「すぐ着手できること」を明示し、行政の本気度を可視化する。</p>	<p>概ね30年という長い時間軸を設定した場合、短期・中期・長期といった具体的な段階を整理することは必要であると認識しておりますが、現時点では駅周辺のまちづくりの基本理念をお示しする初期段階にあるため、各フェーズの明確な区分や詳細なスケジュールにつきましては、今後の検討の中で具体化してまいります。また、本ビジョン策定以降、優先的に取り組む施策として駅前広場の整備案の検討について記載しております。（第5章「清瀬駅周辺のまちづくりの実現に向けて」の「3. 今後の進め方」）</p>	なし
13		全体的に	<p>1. 全般的な問題点（構造的な課題） 「誰がやるのか」が見えない。「官民連携」「プラットフォーム」という言葉は多いが、主体・権限・責任が曖昧。【改善案】取組ごとに最低限以下を明示 主導主体（市／民間／協議体） 行政の役割（規制・支援・実施） 想定される担い手像（商店会、大学、医療機関等） 「市がやらないこと」も明示すると方向性が締まる。</p>	<p>各取組ごとの主体・役割等の明示は必要であると認識しておりますが、今後、取組内容を具体化する中で、その主体・行政の役割等も整理して、分かりやすい形でお示しできるよう検討していきたいと考えております。</p>	なし
14	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	<p>2. 「踏み込み不足」と感じられる具体箇所 若者・ファミリー向け施策が抽象的。「若い世代に魅力的なイベント」「ウォーカブルな空間」→全国どこでも見られる表現。【改善案】清瀬固有の資源と結びつける。医療・看護・福祉系大学 × 健康イベント 農 × マーケット × 駅前空間 「誰が、いつ、どこで、何をするのか」の具体像を1つでも示す。</p>	<p>本ビジョンでは、どのように駅周辺のまちづくりを進めていくか、基本的な理念と取組の方向性をお示ししております。今後は、記載している各取組の方向性に基づき、取組内容を具体的に検討し、今後の計画策定において、この点を明示できるよう努めてまいります。</p>	なし
15	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	<p>2. 「踏み込み不足」と感じられる具体箇所 商店街対策が精神論に近い。創業支援・空き店舗活用と書いているが、業種誘導の有無、家賃・用途・期間の考え方がない。【改善案】「何でもOK」なのか「選ぶ」のかを明確に。 例：飲食過多を避け、生活密着型・滞在型を優先 実験的な期間限定出店などの導入を明示。</p>	<p>取組の方向性の一つとして「商店街のにぎわい創出に繋がる創業・出店・利活用の促進」とお示ししておりますが、ご意見いただいたような具体的な事項については、今後、取組を精査する際に検討されるものと考えております。</p>	なし
16	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	<p>2. 「踏み込み不足」と感じられる具体箇所 交通課題の優先順位が不明確。踏切、南北動線、自転車、車…すべて列挙されているが、どれが最大のボトルネックか不明。【改善案】課題の深刻度評価（安全性・利便性・将来影響） 「まず踏切・南北動線を解消しない限り、他は効かない」等の割り切った整理を行う。</p>	<p>交通面の課題としては、駅前広場、南北動線、踏切、道路、歩行者、自転車、自動車等、多くの課題を抱えている状況であると認識しております。その中でも南口駅前広場は、安全性に欠ける点も多く、交通結節点としての機能強化を優先的に進めるべき課題として考えております。ご意見いただいたような整理は、今後、交通量調査等の必要な調査・分析を経て検討されるものと考えております。</p>	なし

件数 No	該当箇所		ご意見	清瀬市回答	ビジョンへの反映
	章	項目			
17	2章	4. 清瀬駅周辺のまちづくりの課題	<p>4. 総評（率直に）「行政として無難でよくできた計画」。しかし、厳しい選択、優先順位、清瀬ならではの覚悟がまだ見えない。以下提案になります。</p> <p>【該当箇所】第2章「清瀬駅周辺の現状・課題」 p.3～4「清瀬駅周辺のまちづくりの課題」</p> <p>【問題点】本章では、高齢者に関する課題（歩道の段差、休憩場所の不足、バリアフリー等）が挙げられているものの、若者・ファミリー層向け施策と同列に扱われており、優先度が不明確であると感じました。清瀬市の人口動向を踏まえると、今後は高齢者人口の割合がさらに高まることが想定され、駅周辺は「誰もが使える」だけでなく、特に高齢者が安心して日常利用できる空間であることが重要と考えます。</p> <p>【改善提案】課題整理の段階で、「高齢者の日常利用における安全性・快適性」を重点課題として明示的に位置付ける。高齢者視点の課題（移動距離、休憩、視認性、夜間の安心感等）をひとまとめにした項目として整理することを提案します。</p>	<p>清瀬駅周辺の課題や取組に関する高齢者視点のご提案は、非常に重要なポイントと認識しております。一方で、本ビジョンでは、特定の対象に絞らず、高齢者を含め誰でも安全に安心して過ごすことができる空間づくりを目指し、「みんなで育む ホットリビング 駅まちきよせ」を駅周辺のまちの姿として掲げております。今後、取組を具体化していく過程において、ご意見いただきました「高齢者視点の課題や取組」についても十分配慮し、課題整理や施策を進めてまいります。</p>	なし
18	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	<p>【該当箇所】第4章「まちづくりの方向性と取組」 p.7～10 特にバリアフリー、交通機能強化、憩い・交流空間の確保</p> <p>【問題点】高齢者に関する施策（バリアフリー、歩行環境、休憩空間等）は複数記載されていますが、全体の中で優先施策として整理されていないため、若者向けイベントやにぎわい創出施策と同時並行で進む印象を受けます。</p> <p>【改善提案】まちづくりの方向性の中に、「高齢者が主役となる駅前環境整備」を明確な柱として位置付ける。具体的には、ベンチ・日陰・屋根のある動線。駅から医療・商業施設までの「立ち止まりながら移動できる」設計。夜間も安心して利用できる照明・見通しを優先整備項目として明示する。</p>	<p>項番17と同じ</p>	なし
19	5章	1. 適切な手順や手法によるまちづくりの推進	<p>【該当箇所】第5章「実現に向けて」</p> <p>【問題点】PDCAや官民連携の考え方は示されていますが、高齢者の意見をどのように継続的に反映するかが具体的に示されていません。</p> <p>【改善提案】プラットフォームや社会実験において、高齢者を主な利用者とした実証（歩行実験、ベンチ配置、動線確認等）を明示的に位置付ける。高齢者団体・医療機関等の参画を前提とした検証体制を構築する。</p> <p>まとめ 清瀬市の将来的な人口構成を踏まえると、清瀬駅周辺は「高齢者が安心して日常的に利用できる駅前」であることが、結果としてすべての世代にやさしいまちづくりにつながると考えます。本ビジョンにおいては、高齢者の住みやすさをより前面に打ち出し、優先度の高い施策として具体化されることを期待します。</p>	<p>高齢者を含む多様な方々のご意見を反映させる方法については今後の検討課題となります。ご提案いただいた実証や検証体制のあり方を参考にしながら、高齢者を含め多世代の声を取り入れる仕組みについて、引き続き検討してまいります。</p>	なし
20		全体的に	<p>清瀬市は、市内に複数の大規模病院を有し、結核医療をはじめとした医療の歴史と実績を有する自治体であり、この点は他市にはない重要な都市資源であると考えます。これに加えて、清瀬駅南口の商店街には、地域に愛される個性的な飲食店や大衆食堂などが存在し、ノスタルジックな昭和的雰囲気を残す魅力的なまちなみが広がっています。典型的な例として、清瀬駅南口のふれあいどーり商店街には、多様な飲食店舗が点在し南口周辺の魅力を高めています。本ビジョン（案）では、「ホットリビング 駅まちきよせ」という将来像が掲げられていますが、その具体化にあたっては、若者や来訪者向けのにぎわい創出と同時に、高齢者が安心して利用できるまちづくりを優先的な視点として位置付ける必要があると感じました。高齢者にとって使いやすい駅前空間は、結果として子どもや障害のある方を含むすべての世代にとってやさしいまちづくりにつながるものと考えます。その観点から、駅前空間において市内の医療資源、とりわけ大規模病院や公衆衛生の拠点性を、都市構造の中に戦略的に組み込むことを提案します。これは、駅前に医療機能を集積するという意味ではなく、高齢者をはじめとする市民が安心して日常的に利用できる「医療・健康・安心の玄関口」として駅前を位置付けるものです。具体的には、バリアフリー動線の整備や、病院への分かりやすい案内表示、休憩しやすいベンチ・日陰空間の確保などを高齢者利用を前提として重点的に整備することが考えられます。特に大規模病院が駅から距離があることから、そのポータルとしての診療拠点を駅の近くに設けることを病院側と検討できないでしょうか？さらに、駅前空間における商店街の個性的な飲食店や昭和的な雰囲気を活かすことは、単なる観光的にぎわいではなく、地域の生活文化や「日常の楽しさ」につながる重要な要素です。南口商店街の飲食店は、地域住民が日常的に訪れる生活空間としての魅力をもっており、高齢者が歩いて楽しめる商店街空間の維持・活用は、安心・健康・交流の確保につながると考えます。この点は、清瀬市都市計画マスタープランにおける中心拠点としての整備方向とも整合すると考えます。こうした医療・公衆衛生機能と、昭和的商店街の「歩きたくなる空間」を組み合わせた駅前整備は、医療機関、商店街、行政、地域団体が連携するプラットフォーム形成にも資し、第5章で示されている官民連携によるまちづくりの方向性とも合致します。駅前に医療を前面に打ち出すのではなく、清瀬市が有する医療資源を「高齢者が安心して暮らし続けられる都市基盤」として位置付け、商店街の生活文化を育むことは、今後の高齢化社会に対応した持続可能なまちづくりにおいて重要な方向性であると考えます。本ビジョンの今後の具体化にあたっては、高齢者の住みやすさを重点に据えた駅前拠点形成と、南口商店街の個性を活かした生活文化創出の観点について、検討項目として明示的に位置付けることを要望します。</p>	<p>清瀬市の医療資源や南口商店街の魅力的な雰囲気や歴史的価値を、駅前空間の将来像と結び付けて捉える視点は重要であると認識しております。また、本ビジョンに掲げる「ホットリビング 駅まちきよせ」の実現に向けては、高齢者をはじめとする市民の皆様が、安心して日常的に利用できる駅前空間を形成するとともに、にぎわいの創出策により地域の活性化を図ることが重要であると考えております。今後の取組の具体化にあたっては、医療・健康・安心の視点や、商店街の個性を活かした駅前環境づくりについて、いただいたご意見を参考にさせていただき、関係主体と連携しながら検討してまいります。</p>	なし

件数 No	該当箇所		ご意見	清瀬市回答	ビジョンへの反映
	章	項目			
21	2章	3. 清瀬駅周辺の特性と現状	3p 2章3.にて若者やファミリー向けの施設がない事に触れているが具体的にはどのようにしていきたいか見えてこない。駅南口で若者が遊べる所は無いので電車で所沢に行ってしまうし、西武線も急行が止まらない+遊ぶ施設が無いので人も来ない。かなり現状としては打開が困難に思えるが、何をどうして人を集めるのか。東久留米のイオンのように分かりやすいショッピングモールができれば簡単なんだろうが、何か具体案はあるんでしょうか	若い世代やファミリー向けのスポットが少ないことについては、現状課題として認識しております。清瀬駅周辺のまちづくりの方向性でお示している「まちの拠点機能を強化する」の実現に向けた検討の中で、ショッピングモールのような分かりやすい施設整備も含め、地域の特性や市民のニーズを踏まえて、今後、具体策を検討してまいります。	なし
22	2章	3. 清瀬駅周辺の特性と現状	本ビジョンは、清瀬駅周辺の将来像について方向性を示す資料として理解できましたが、現状の利用実態や傾向を示す定量的な情報が限られているため、市民として駅周辺の課題や強みを具体的にイメージしにくいと感じました。例えば、平日昼間・夕方・土日といった時間帯ごとに、どのような人が、どのような目的で利用しているのかといった基本的な整理が示されることで、市民の意見もより具体的になるのではないかと思います。	本ビジョンの策定にあたり、令和5年度に現況調査を行い、「清瀬駅周辺の未来構想ビジョン基礎調査」として結果をとりまとめ市ホームページで公表しております。アンケート結果等、定量的な情報も記載しておりますが、今後より一層わかりやすい情報発信に努めてまいります。	なし
23	4章	1. 清瀬駅周辺のまちづくりの方向性	「清瀬らしい」「清瀬ならではの」といった表現については、方向性としては共感できるものの、具体例や考え方のヒントが少ないため、意見を考える際の手がかりが不足しているように感じました。清瀬の暮らしや日常と結びついた要素を例示することで、市民が自分の生活経験をもとに意見を出しやすくなると考えます。 ----- 「清瀬らしい」「清瀬ならではの」具体例としては、例えば以下のような要素が考えられるのではないのでしょうか。無農薬・有機野菜など、日々の暮らしや健康につながるものが身近に手に入ること。畑仕事など、自然や農に触れられる体験ができること。朝の時間帯を活用した、朝活や軽い運動、交流の場があること。体にやさしいお菓子や食べ物など、安心して選べる選択肢があること。誰か一人に大きな負担がかかるのではなく、多くの人が関わりながら、顔の見える関係性や、やさしい雰囲気や育まれていくことは、継続的なまちづくりにおいてとても大切な視点だと思われまます。見る・買うだけでなく、実際に参加・体験できる機会とともに、こうした日常に根ざした要素が重なっていくことで、清瀬駅周辺が、特別な目的がなくても自然と足を運びたくなる場所へとつながっていくのではないかと感じました。	本ビジョンの「清瀬駅周辺の特性」に記載している内容に限らず、地域の皆様の多様な視点を取り入れ、清瀬駅周辺の魅力向上に繋がるよう検討してまいります。ご提示いただいた要素は、清瀬の特色を活かした取組として、参考にさせていただきます。	なし
24	4章	1. 清瀬駅周辺のまちづくりの方向性	街の拠点機能を強化する、とありますが、清瀬駅周辺が今後、市民の日常を支える拠点として機能を深めていくのか、あるいは目的がなくても立ち寄りたくなる場所へと役割を広げていくのかといった点について、現時点での考え方や仮説がもう少し示されると、ビジョンへの理解が深まり、より建設的な議論につながるのではないのでしょうか。あわせて、本ビジョンがどのような検討過程を経てまとめられたのか、その背景や関わっている方々の考え方が共有されることで、市民として納得感を持って参加しやすくなり、今後のまちづくりへの継続的な協力にもつながると感じました。清瀬駅周辺が、特別なイベントがなくても、日常の中で自然と使われ、人が無理なく集まり続ける場所となるよう、本ビジョンを起点に、具体的な議論と市民参加が進んでいくことを期待しています。「まちの拠点機能を強化する」イメージとしてホテルの図が示されていますが、自然が多いという意見もある中で、これが清瀬らしさや清瀬駅周辺の象徴として適切であるかについては、市民として疑問を感じました。清瀬の特性や市民の暮らしとのつながりを踏まえた拠点像について、もう少し丁寧な検討や考え方の説明があると、より理解しやすくなるのではないかと感じます。	清瀬駅周辺は多様な世代が暮らし、働き、訪れることで、活気にぎわいに満ちたまちの中心拠点となること目指します。生活利便性の向上を図るとともに、自然と立ち寄りたくなるような魅力的な空間を創出できるよう、まちの拠点機能を強化する取組を検討してまいります。本ビジョンの検討過程につきましては、参考資料ページの中で、検討の経過や協議会の様子、地域の皆さまからのご意見等をお示しいたします。清瀬駅周辺のまちづくりの方向性「まちの拠点機能を強化する」のイラストは、あくまで拠点機能を強化したまち並みのイメージ例です。どのような拠点機能をどこに設けるのか等につきましては、駅前整備の検討の中で今後具体化されます。拠点機能のあり方については、清瀬らしさや暮らし、利便性との調和を考えながら検討を進めてまいります。	なし
25	5章	1. 適切な手順や手法によるまちづくりの推進	まちづくりに関する事例や財源の考え方などは、研究や専門的な知見がなければ意見として出しにくい内容も多いと思います。研究者や専門家の意見を聞く機会に加え、市民自身が学び、理解を深めた上で意見交換できる場があることで、より建設的で実りのある議論につながるのではないのでしょうか。また、その場で発言することが難しい人でも、後から意見を提出できるなど、参加のハードルを下げる仕組みがあるとよいと感じました。	本ビジョンの検討にあたって、市民ワークショップや各所でのアンケート、インタビューを実施してご意見を踏まえながら策定してまいりました。今後、計画等の策定や駅周辺整備の検討を進めていく際にも、市民の皆様が参加しやすい仕組みを整え、幅広い意見を伺える機会を設けるよう努めてまいります。	なし
26		全体を通して	SDGsと官民連携とグローバル化が活かしているといいと思います。	本市はSDGs未来都市として選定されておりますので、その理念を踏まえるとともに、官民連携やグローバル化等の視点も注視すべき近年の社会情勢として認識しております。具体的な施策を考えていく中で、これらを考慮して検討してまいります。	なし

件数 No	該当箇所		ご意見	清瀬市回答	ビジョンへの反映
	章	項目			
27	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	多世代が集える場所、例えば、老人のケアホームの1階に、カフェ、イベントができたり、誰もがたちよれる場所があればいいと思う。	駅周辺において、誰にとっても居心地よく憩える場所の確保は必要であると考えており、「清瀬駅周辺のまちづくりの取組」にも記載しております。このようなスペースの配置や活用等については、今後の検討の中で具体化してまいります。	なし
28		全体的に	高齢者に優しいまちづくりなのか、若者にあふれたまちづくりなのか、どちらのまちづくりを推進すべきか。現在清瀬市は少子高齢化が顕著な問題となっているが、その対策としてやはり若者を呼び集めることがあるだろう。しかし、若者の立場としては遊べる場所（例：ラウンドワン）がないことを理由に若者は清瀬市にあまり来ないだろう。よって、遊べる場所の建設は現実的でないことから、私は高齢者特化の政策をするべきだと考える。	駅周辺は地域を中心となる空間であり、誰もが安全で快適に利用できる環境づくりが重要であると考えております。高齢者だけでなく障害者や車いす・ベビーカー利用者等へ配慮した清瀬駅周辺の整備の実現に向けて努めてまいります。また、清瀬市には高校や大学等の教育・研究機関があるため、若い世代が駅を利用し通学していますが、学生が集えるスポットが少ないことも課題の一つです。まちの活力を高めるためにも、駅周辺が市内外から若い世代を含め多世代が集まる拠点となるよう、商業機能等の配置を検討してまいります。	なし
29	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	今、全国で問題となっている空き家問題にどのようにして対処すべきか。空き家の処理方法について詳しくは知らないが、空き家はただスペースの無駄となっているのは明らかだ。なので私が思うことは、空き屋の無償取り壊しの法制度の実現を達成し、それ以降、清瀬市のスーパーがあまりないという問題を空き家を壊してリフォームして、そこにスーパーを建てることで解決するべきだと思う。	空き家の無償取り壊しについては、財源確保の問題もあり慎重な検討が必要ですが、空き家をリノベーションして駅周辺のニーズに合った施設や機能へと再利用することは、老朽化した建物の更新や防災・防犯機能の強化、景観の改善、地域の活性化へと繋がるため、効果的な取組の一つとして、今後検討してまいります。	なし
30	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	商店街の活用方法について。私はいまだかつて清瀬市の商店街を利用したことはない。こういう層は一定数いるので、新参者がとつきやすいようにする政策をするべきだと思う。	若い世代や清瀬市に新しく越してこられた方にとっても、清瀬市の商店街を身近に感じていただけるよう、利用のしやすさや魅力向上等について、事業者や担当部署とも連携のうえ、引き続き努めてまいります。	なし
31		全体的に	未来構想ビジョンに対して思うことを少し述べる。それは「財源はどうするのか」ということだ。実際、まちづくりをするために無償で行うことはできないが、その財源についての言及がなかったのが残念だ。しかし、将来の清瀬の姿としては悪くないと思った。あとはこれをより実現可能なレベルに改良することは大切だろう。	現在、清瀬市を取り巻く財政状況は厳しいものがあります。そのため駅周辺の整備に向けては、本ビジョンに掲げた取組すべてを一度に実施するのではなく、限られた資源で優先すべき施策をできることから段階的に取り組んでまいります。また、財源については、国の補助金の活用や官民連携による資金調達等、多様な財源確保を視野に入れて駅周辺のまちづくりを推進してまいります。	なし
32	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	「医療充実の街清瀬市」（仮称）清瀬市を駅を境にして北側と南との地域に2分して、それぞれの地域内の1ヶ所に診療科の異なる診療所を集める…例えば整形外科、内科、小児科、眼科など…ことにより利用者の利便性を図り、またこの箇所へは循環バスの利用出来る箇所に設けることにする。そして南と北の診療所の休診日は異なる曜日とする。	いただいたご意見を参考にさせていただき、医療とともに発展した歴史を持つ周辺の特性を踏まえた清瀬駅周辺のまちづくりを進めてまいります。	なし
33	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	策定にあたり、市と協議会の案が整理されていて、更に意見を述べるのは難しいが、私の清瀬駅周辺ビジョン案を提出します。私案の根底は、「緑の清瀬」で駅周辺を象徴的にデザインする案です。未来構想案の範囲を全て「林」とし、外周は車・歩道（自転車含む）を設け、林間は彫刻と多目的ステージを設けることで、駅と有機的環境としたい。樹木につき維持管理経費も掛かるが、ファンドトラストなど知恵を絞る。市の都市計画プランでは、中心拠点として位置づけられているが、まちの玄関口として、従来は広場・施設・建物などで構成されているが、今回の計画ではソフト面から捕え、用途を憩い・交流・安心・安全・自然など特性を生み出したい。旧来の石と鉄とコンクリートの人工的広場から、樹木と自然に囲まれた人に優しい広場を計画。上記計画は孫子の代までの長期にわたるが、人と自然の調和でソフトな駅前広場の環境を造りたい。市のビジョン案に沿わない駅前ですが、「緑の清瀬」をアピールするシンボル清瀬駅周辺であってほしい。「みんなで育てるみどりの駅まち清瀬」「降りたら林と清涼な空気の駅まち清瀬」	清瀬市の特性である豊かな緑を活かした駅周辺空間のあり方については、いただいたご意見の趣旨を踏まえ、今後の検討の参考にさせていただきます。	なし

件数 No	該当箇所		ご意見	清瀬市回答	ビジョンへの反映
	章	項目			
34	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	<p>第4章、9～11ページの道路事情や南口駅前の整備に対して。南口のバスの乗入は、きよバス等の小型バスとタクシーのみに出来ないのだろうか。その他の路線バスは、北口乗降にし、新小金井街道を通行して、駅西側の大踏切前から松山三丁目迄の間を通行しないことで、歩行者やバスの乗客と運転手、他の車の安全確保、狭い小金井街道のバス乗降による渋滞解消に繋がるのではないだろうかと常を感じる。南口の駅前に関しては、新宿御苑のイギリス風景式庭園の様に、芝生の広場を作る事で、大震災等の際の避難場所、普段は多くの人が自由に過ごせる空間を作れないだろうか。昨今は、キッチンカー等もあるので、多くのキッチンカーが週末に集まり商売をするようになり、話題になれば、他の街からも多くの人々が訪れ、地域の人々にも好影響が得られるのではと感じる。大震災の発生確率が高まる今、賑わいを作り、人々を地域に集めるのであれば、同時に人々が避難できる場所も確保しなければならないと感じる。地域に暮らす人々だけで賑わいを作ろうとするのでは、いずれ、地方の商店街の様になってしまうのではないだろうか。今後もこの先永続的に賑わいを保つためには、南口は病院関連の街である事を踏まえて、徹底したバリアフリー化を実施する事で話題とし、緑陰通りを循環する小型バスを病院利用者向けに作るのも親切なのではと感じる（実際は既にあるかもしれませんが）。同時に他所より多くの人々が、清瀬市に足を運びたいと思わせる必要があると感じる。建物を建築するのではなく、むしろ何も無い広く平坦な空間を作ることで多くの露店や屋台、時にはサーカス、野外コンサートも催せるのではないだろうか。商店街を集約、再編して得られるかなり広い場所を確保することが私は良いのではと感じる。最後に、広い芝生の広場は、自然と人間の文明を感じさせる。植物、そして手入れをする人間の文明と文化を。以上。</p>	<p>小金井街道の交通渋滞緩和や大踏切の安全性確保は、重要な課題であると認識しております。バスのルートについては、今後の検討課題として、交通事業者等の関係機関と検討を進めてまいります。駅周辺における広場やオープンスペースの整備等、具体的な取組については、市民の皆様のご意見を踏まえ今後検討してまいります。</p>	なし
35	4章	2. 清瀬駅周辺のまちづくりの取組	<p>ご尽力に感謝いたします。 今後30年間の長期的なビジョンです。年月だけでなく膨大な予算を投入する事業と考えます。駅周辺をどう変えていくのか、青写真や地図を立体的に起こして図式化、立体化は皆さんの討論の中にて話されたのでしょうか。昨年度基礎調査、今年度未来ビジョン策定、急ぎすぎていませんか。3. 今後の進め方の図を見ると、いとも簡単にできるように感じます。膨大な計画ですから、全体計画がしっかりあり、現状をつかみ細かい計画と、配慮が必要になります。更地につくる物でないし、現実そこには毎日を生き、生活している町です。思うように進まない土地買収があり、住民とじっくり話し合わないことには進みません。そこを大事にしてください。 この計画を読みながら、ビジョンの中に長期計画と同時に進めなければ町が住みにくい、廃れてしまい、魅力がなくなってしまう、清瀬の現実を良くする計画もやってほしいと、提案いたします。 1. ふれあい通りの活性化です。シャッター通りでなく、店の応援をしてください。上り下りしないふれあい通りでの買い物は魅力的です。コミュニケーションのあり、都内の谷中商店街を思わせます。空き店の活用、商工会の出番ではありませんか。 2. 清瀬は駅近くに農家さんがあり畑に直に触れることができます。取れたての生産物を利用して畑の中のレストランなど食育と楽しさを味わうことができます。 3. ひまわりフェスティバルのバスは無料でもよい。来る人は来るからです。 4. 誰にでも優しい道はいい。車いすの方、斜めに偏っている歩道は怖いと車いす体験で感じました。バリアフリー賛成です。休めるベンチもあったらいいと。 5. 町の交通については、バス便の増加、きよバスの大いなる活用、市民の願いです。 6. 駅周辺のにぎわいだけでなく、市内すみずみに生活している市民について、買い物難民解消のため、地域に小さなストア、便利に生活できる公共施設がほしいです。旭が丘団地周辺は以前はなんでもありました。便利さがなくなってしまうと、人が出ていくだけで集まりません。野塩・中里・竹丘もそうです。住民の要求の声を聞いてみてくださいませんか。たくさん書きましたが、よろしくご検討ください。</p>	<p>本ビジョンは、概ね30年間を見据えた長期的な駅周辺のまちづくりの指針として策定するものです。優先順位や財政状況を考慮し、市民の皆様のご意見を伺いながら段階的に進めてまいります。また、本ビジョンの策定にあたって、現状や課題、今後の取組の整理を行う際に、駅周辺の地図を用いた議論を行いました。具体的な機能や配置等の議論については、今後の検討課題となります。 駅周辺に限らず、市全体のまちづくりにつきましては、いただいたご意見を踏まえて、第5次清瀬市長期総合計画の中で検討してまいります。</p>	なし